

道立高等学校長庁内公募 (中間 ・ 期末) 報告

学校(所属)名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道余市紅志高等学校	校長	生田仁志	63	令和2年4月1日

<キャリア教育の重点>

ソムリエカの育成

地域資源の価値に気づき、価値を付加し、地域課題解決のための実践を通して相手意識に立ったコミュニケーション力を身に付けるとともに社会との関わり方について考え、実践していく力を身に付けさせる。

1 これまで取り組んできた改革

- (1) 地域のネットワークを生かした地域づくり
 - ア ワイナリー夢の森との連携(ワイン生産実習)
 - イ バイオ苗栽培(無菌状態のワイン用ブドウ苗の生産)
 - ウ 高専連携農福連携の推進(連携実習)
 - エ 「余市紅志高校をハブとした地域づくりコンソーシアム」の実働
- (2) 新教育課程の編成、実施(めざす生徒像実現、進路実現のために)
 - ア 年次進行による考査の廃止、3年間での履修単位の削減
 - イ 農福連携事業(障害者の就業支援、高齢者の福祉活動)
 - ウ 学校教育目標に即したコア・ルーブリックによる評価→学習評価における3観点評価へ
 - エ 各教科・科目における目指す資質・能力ごとのルーブリック作成、研修の実施
 - オ 生徒の主体的活動の拡充(学校PR局による中学校における学校説明、学校だよりの発行)
 - カ ICT活用の拡充(1、2学年1人1台実現+Wi-Fi環境の整備、授業配信の定着)
 - キ 学校間連携

2 進捗状況及び成果

- (1) 地域のネットワークを生かした地域づくり <地域づくりコンソーシアム事業>
 - ア ワインの試作品を余市町「20才のつどい」で記念品として配布(約200本)
 - 情報科目「情報実習」選択生徒によるワインラベル完成



<「20才の集い」用にラベリング作業>

<授業で作成したラベル>

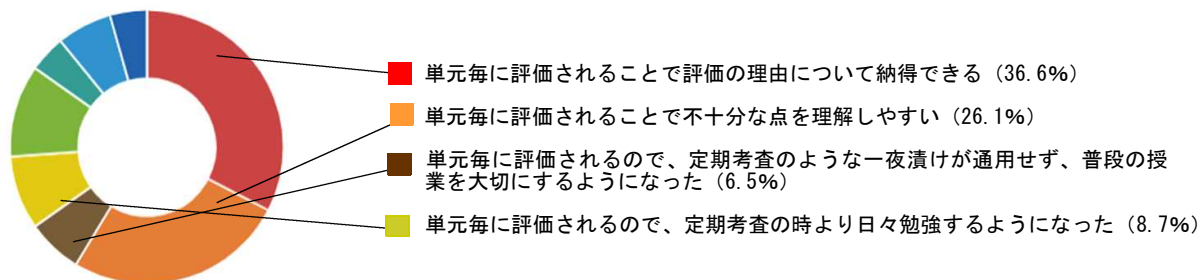


<「余市町20才のつどい」でワインを手にする成人の皆さん> <余市養護学校生徒とのコラボレーション商品>

- イ バイオ苗担当できる民間講師が見つからず、停滞。
- ウ 専門学校との合同カリキュラム実施 <農福連携コンソーシアム事業>
 - 「生活・福祉系列」科目受講生徒と専門学校生との合同実習→次年度も継続
 - バリアフリー農園の成果→次年度、実際の老人介護施設(余市フルーツシャトー)での設置へ(園芸療法への発展も検討)

- エ 「余市紅志高校をハブとした地域づくりコンソーシアム」による成果
 - 「20才のつどい」でのワイン提供（余市町役場）
 - しりべし商談会への生徒参加（振興局）
 - 合同カリキュラムの構築、実施（余市養護学校、札幌心療福祉専門学校）
 - 木工製品（ネームプレートなど）の町への提供、活用（余市養護学校＋余市町役場）
 - 本州から入学する生徒（北海道でジャンプ継続のため）への下宿先選定（町教委）
 - 地域商店街活性化プロジェクト「スタンプラリー」の実践（商工会議所＋商店街）
- (2) 新教育課程の編成、実施（めざす生徒像実現、進路実現のために）
- ア 年次進行による考査の廃止、3年間での履修単位の削減（単位数削減の成果は次年度以降）

＜生徒アンケート「定期考査廃止に関して」より抜粋＞ n=30 R5.1.23



- イ 農福連携事業（障害者の就業支援、高齢者の福祉活動）
 - 当初の目標を達成。次年度の教育課程へ反映させる（農作業分解と高等部生徒との実習。）
- ウ 学校教育目標に即したコア・ルーブリックによる評価
 - 学習評価における3観点評価→年次進行で研修、実践、課題について整理→次年度のテーマ
 - AAC、ACCなどバランスの悪い評価の考え方について
 - 単元毎のC評価への手立ての方法やタイミング等の在り方について
- エ 各教科・科目における目指す資質・能力ごとのルーブリック作成、研修の実施
 - シラバスの充実、活用、ルーブリックの課題について継続的に研修
- オ 生徒の主体的活動の拡充（学校PR局による中学校における学校説明、学校だよりの発行）
 - 生徒による広報活動の定着（各月間による学校だよりの発行、町内中学校への特別号の配布、町内回覧）
 - 生徒による中学校での学校説明（5校）実施→高校生の姿が見られるため高評価
 - 体験入学での高校生による進学相談→高校生からの直接の説明が高評価
- カ ICT活用の拡充（1、2学年1人1台実現＋Wi-Fi環境の整備、授業配信の定着）
 - 1、2年生への1台通年貸与へ（3年生は必要に応じて貸与）
- キ 学校間連携
 - 有朋高校通信制との連携維持→校外の学修の単位認定拡大及びオンライン授業の単位認定に備えて
 - 総合学科間の学校連携によるオンラインによる授業、講習等の配信について検討継続
 - 余市養護学校との合同カリキュラムの発展、充実

3 課題及び解決に向けた方策

(1) 令和5年度の教員負担増→時間講師の探索が困難を極め教員負担一層増加

超過\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
時間	46.3	45.6	50.6	38.5	31.1	50.5	43.5	41.8	39.0	27.7	39.7
人数	10	13	13	10	6	12	12	11	10	2	9

- ・業務縮減とは裏腹に地域からの期待の増加（部活動、農業活動など）
- (2) 1間口完成後も持続可能な地域の特色ある総合学科校の維持
 - ・T-baseの活用検討→有朋高校通信制との学校間連携による単位取得を遠隔授業へ拡大要請
 - ・総合学科間の学校間連携→石狩翔陽高校とオンライン授業、オンデマンド学修の単位認定の検討を期待

4 成果と課題を踏まえた今後の取組予定

- (1) 教科・科目横断的授業の充実
 - (2) ワイン、エディブルフラワーの活用（販売目標等の設定など）（6次産業学習）
 - (3) 学校間連携による合同カリキュラムの展開
 - (4) 地域連携による安心して住み続けられる町づくりをテーマとする課題探究の深化、発展
 - (5) 地域づくりコンソーシアムの一層の活動推進
- ＜残り2年で一層の焦点化を図るとともに、今後の学校の特色として校内、地域への深い定着を図る＞

